

## 平成28年度事業報告

### 【本部及び全事業に関する報告】

平成28年度は、開始早々に熊本地震が発生し多難な船出となりましたが、多方面からのご支援と、自らも被災しながら事業所運営に献身的に取り組んだ職員のみなさんの努力が実り、終わってみれば就労収入は前年度を上回り、総利用日数もほぼ前年並み（前年比98.4%）となりました。

A型事業は、発災直後にグリーンコープ様からの人的支援をいただいたこともあり、一日も作業を止めることなく活動できました。B型と就労移行支援および生活訓練については、受注先の企業活動の停止等に伴い、利用者さんの安全確保のため、それぞれ4～6日間の休業とし、担当職員はその間A型の作業に従事し、あるいは復旧作業にあたるなど、様々なかたちで事業継続に尽力してくれました。

7月に起きた「津久井やまゆり園」での殺傷事件とあわせ、平成28年度は危機管理の重要性を痛感させられる年でした。補助金を利用しての防犯カメラの設置などハード面での整備に加え、毎月行われる職員研修会においても、救急救命法や不審者対策、防災マニュアル等についての研修を行いました。

また、年度の後半には、社会福祉法人制度改革に対応するため、定款変更や規定の整備等を行いました。

### 1. 本部事業

- (1) 評議員会開催 4回（5月24日、9月14日、12月22日、3月17日）  
理事会開催 6回（5月24日、9月14日《第2回》、9月14日《第3回》、12月22日、2月14日、3月17日）
- (2) 監査の実施状況  
監事による業務監査 13回（5月17日、6月28日、7月27日、8月18日、9月29日、10月14日、10月26日、11月16日、11月25日、12月15日、1月12日、3月8日、3月29日）
- (3) 広報誌発行 3回（6月、11月、2月）

#### (4) 苦情解決の取り組み

- ・受付担当者等の受付件数 3件
- ・解決件数 3件

意見内容	受付件数	解決件数	未解決件数	備考
職員（利用者も含む）の言動態度	3	3	0	
施設の方針	0	0	0	
施設整備の改善	0	0	0	
その他	0	0	0	
合計	3	3	0	

## 2. 主な整備・資産処分

今年度固定資産として整備したものは以下のとおりです。

### 【整備】

平成28年5月16日	黒石原荘居室天井補修	205,200	
平成28年7月31日	3号館LED	200,880	
平成28年8月21日	食堂エアコン	172,000	
平成28年8月31日	2号館LED	275,400	
平成28年10月14日	レーザー加工機	348,808	2台
平成28年12月19日	プレハブ	543,996	電気工事代含む
平成28年12月26日	丁合機	5,400,000	丁合機部品
平成29年3月17日	熊本地震災害復旧工事（本館）	2,743,200	内補助金2,010,000
平成29年3月17日	熊本地震災害復旧工事（黒石原荘）	840,240	内補助金603,000
平成29年3月30日	食堂他管理室LED	313,200	

### 【資産処分】

平成28年度の資産処分は下表のとおりでした。

食堂エアコン更新	0
スタッカ・エレベータ	465,750

## 3. 職員の採用・退職

- ・退職2名（移行型常勤職員1名、パート職員1名）
- ・採用0名

#### 4. 職員数（平成29年3月1日在籍数）

職 種	人数	備 考
施 設 長	1	
副施設長	1	
事 務 長	1	
サービス管理責任者	1	
生活支援員・サービス管理責任者（兼任）	2	
生活支援員・職業指導員	15	サンシャインワークス（A型）5人 すてっぷはうす（B型）5人 サンライズ（移行型）3人 風見鶏（生活訓練）2人
事 務 員	2	
調 理 員	2	
グループホーム世話人	5	全員業務委託
合 計	30	

※他に産業医1名、臨床心理士1名、管理栄養士1名（全て委託）

#### 5. 寄付いただいた団体・個人様

ご寄付をいただき、誠にありがとうございました。

お名前	寄付用途等
廣野 立一 様	新 米
アグリカルチャサービス 様	野菜やくだもの
井 義光 様	ミネラルウォーター
森本 翔太 様	飲料水、メロン
NPO法人 チーム絆 様	飲料水、非常食、衛生用品等
石見 修 様	震災見舞金
杉 克明 様	法人運営のため
渡辺美智子 様	法人運営のため
守田 蔦恵 様	法人運営のため
岡崎 誠子 様	乗用車
岡崎 誠子 様	法人運営のため
後藤 一俊 様	利用者さんのため
横山 孝之 様	法人運営のため

## 【平成28年度事業活動報告】

### 事業全体の取り組みの結果

#### 1. 年間平均利用者数

事業別（定員）	年間平均実利用者数	
	単位：人（ ）内はH27年度	
サンシャインワークス（A型）（30）	26.2	（24.7）
すてっぷはうす（B型）（20）	16.9	（15.1）
サンライズ（移行型）（10）	8.2	（12.6）
風見鶏（生活訓練）（10）	2.6	（3.3）
合 計（70）	53.9	（55.7）

事業別（定員）	年間平均実利用者数	
	単位：人（ ）内はH27年度	
黒石原荘（10）	7.8	（6.6）
泉ヶ丘ホーム（5）	3.9	（3.0）
すずかけ台ホーム（5）	4.2	（4.7）
合 計（20）	15.9	（14.3）

#### 2. 就労事業収入

事業別	売上高（千円）	前年比	予算比
サンシャインワークス（A型）	69,465	101.8%	104.5%
すてっぷはうす（B型）	6,402	117.0%	128.0%
合 計	75,867	103.0%	106.1%

- （1） A型では、4月に発生した平成28年熊本地震の影響で、木之内農園様の施設外作業が大幅に減少しましたが、一方で、期中にグリーンコープしまね様の丁合が始まるなど、丁合業務での定数増や、コーヒー事業の伸びがあり、収入を伸ばすことができました。
- （2） B型では、古閑産業様からの受注増に加え、三菱電機ロジスティクス様の作業量増加などが大幅な収入増につながりました。

### 3. 支払賃金・工賃

- (1) A型における平均賃金は102,317円で、前年度を上回ることができました。  
(平成26年度実績97,299円)。最低賃金が694円から715円へと21円引き上げられたことが主な要因と考えています。
- (2) B型における利用者の工賃は、前年度同様1日あたり1,000円でしたが、月額平均での工賃は18,672円(前年度18,257円)と、わずかに向上しました。
- (3) 移行型における利用者の工賃は、前年度同様1日あたり600円でした。

### 4. 余暇活動・健康管理および安全・衛生管理

#### ①主な行事

- ・サンシャインフェスタ 9月10日
- ・日帰り旅行(大分) 10月21日
- ・新年会 1月7日
- ・旅行(1泊2日 長崎県) 10月1・2日

#### ②安全・衛生、健康管理面

- ・産業医による面談 毎月
- ・熊本赤十字病院及び  
熊本県総合保健センターによる健康診断 年1回
- ・臨床心理士による面談 毎月
- ・労働安全衛生法にもとづくストレスチェック 年1回

### 5. 見学・実習の受入れ

主に支援学校から396名の見学と39名の実習生を受け入れました。内訳は下記の通りです。

#### ・見学者内訳

種別	人数
支援学校	304
他事業所	14
関係団体(育成会等)	47
個人	31
合計	396

#### ・事業所別実習生内訳

事業所	人数
サンシャインワークス(A型)	9
すてっぷはうす(B型)	18
サンライズ(移行型)	10
風見鶏(生活訓練)	2
合計	39

また就労移行支援事業では、一般事業所実習に力を入れ、実習を通して就職に結びつくことが出来るよう支援しました。実習先については13ページをご参照ください。

## 6. 職員の資質向上（施設内研修）

(1) 施設内全職員研修会（月1回開催）

(2) 施設外研修会参加及び研修報告会

・ 県および県社協主催研修会 13件 22人（のべ）

・ 県内関係団体主催研修会 9件 16人（のべ）

(3) 委員会活動

・ 広報委員会（月1回開催） ・ 行事委員会（不定期開催）

・ 研修委員会（月1回開催） ・ プロジェクト委員会（不定期開催）

(4) 定例施設内会議

・ 部門代表者会議（年9回開催） ・ 職員会議（月1回開催）

・ 各部門定例会議（各月1回） ・ グループホーム会議（月1回開催）

## 7. 主な設備整備（2ページをご参照ください。）

## 事業別報告

### 1. サンシャインワークス（就労継続支援A型）

(1) 生産事業 売上69,465千円（前年比101.8%、前年度決算68,217千円）

本年度のグリーンコープ様丁合では、各単協様の組合員数拡大に加え、9月より島根様の丁合作業が追加されたことにより売上げ増となりました。珈琲事業では4月の地震の影響が多少ありましたが、全体で見ると個人客の注文の増加、アドシン様からの受注増加により売り上げ増となりました。施設外作業では、柱である木之内農園様の作業が地震の影響で大幅に減少した事により売り上げ減となりました。

地震の影響はあったものの、グリーンコープ様の作業の追加・珈琲事業の販路拡大により、目標売上の66,500千円を上回る数値でH28年度を終了することができました。

（単位：千円）

受注先	売上額
1. 丁合作業	61,227 (103.0%)
2. 施設外作業	444 ( 37.1%)
3. 珈琲事業	6,894 (107.8%)
4. その他	900 ( 75.9%)
合計	69,465 (101.8%)

(2) 利用者支援

#### ①作業能力レベルアップ

##### ・リーダー制の導入

作業場リーダーを5名選出し、従業員主体で作業が行えるよう指導・育成・支援しました。結果、職員が作業に常駐しなくても作業を進められる状態になりました。

##### ・支援計画書の見直し

毎月従業員と内容の振り返りを行う事で、目標の意識付けを行いました。

- ・給与（時給）

熊本県の最低賃金694円（平成28年10月以降715円）に合わせて、給与の支払いを行いました。昨年に引き続き、7名の方について最低賃金減額の特例を受けました。

- ・年間賞与（合計1.9ヶ月）

勤務評価に基づき、勤務能力に応じて支給を行いました。また、6月の賞与では規定の賞与支給（0.9ヶ月）に加え、平成27年度の業績による加算分0.1ヶ月を合わせて1.0ヶ月分を支給しました。

- ・定員（30名）

平成28年度は4月に新入社員1名（支援学校より）を迎え、29名でスタートしました。平成28年度中に途中入社・退職した方はいません。

- ・賃金支給の状況

月額（平均）	内 容	【参考】 27年度
102,317円	時給694～715円（最低賃金特例除外者除く） 賞与年間 1.9ヶ月（6月、12月）	97,299円

## ②社会的自立レベルアップ

- ・適切な社会生活が送れるように支援（コミュニケーション能力や協調性の指導）を行いました。
- ・朝礼時には、一日の目標として「本日の一言」を設定し、作業・社会性・協調性など様々な面での意識の向上を図りました。
- ・リーダー制を通じて、責任感や働き方への意識向上を図りました。

## ③一般就労について

- ・H28年度は、一般就労者はいませんでした。



### (3) 実習生の受け入れ（全事業）

支援学校を中心に実習生を受け入れました。夏休み中の実習も行いました。実習生のうちA型では1名（全体では6名）が平成29年度より利用されることになりました。

#### ・実習生の受け入れ状況

	のべ人数	A型	B型	移行型	生活訓練	備考
ひのくに支援学校	1	1	0	0	0	
菊池支援学校	12	2	7	3	0	平成29年4月よりA型1名、B型1名利用
菊池支援学校 （鹿本分教室）	1	0	1	0	0	
黒石原支援学校	9	1	2	4	2	平成29年4月より生活訓練1名利用
大津支援学校	3	0	1	2	0	平成29年4月より移行型1名利用
松橋支援学校 （氷川分教室）	3	1	1	1	0	
西合志南中	6	3	3	0	0	
藤園中	2	1	1	0	0	
その他	2	0	2	0	0	平成29年4月よりB型2名利用
合計	39	9	18	10	2	

### (4) 行 事（主なもの）

祭り（9月）、社員旅行（10月：長崎）、新年会（1月）、などを実施致しました。

### (5) その他

平成29年2月にA型家族懇親会を多目的ホールにて開催いたしました。

## 2. すてっぷはうす（就労継続支援B型）

(1) 就労活動 売上6,402千円（27年度売上額5,472千円）

（単位：千円）

受注先	売上額
古閑産業 様	3,097 (125.9%)
三菱ロジスティクス 様	1,330 (175.2%)
共同 様	249 (68.8%)
K企業 様	273 (66.1%)
その他（数社合計）	1,453 (98.3%)
合 計	6,402 (117.0%)

※古閑産業様からの受注量が27年度に比べ増加した事に加え、三菱電気ロジスティクス様より昨年の8月から週に3回の出荷という定期的な依頼を頂けるようになった事が、就労収入の大幅増に繋がりました。また、利用者1人1人のスキルアップも実感できる場面が多かったように思います。

(2) 工 賃

日額1,000円（時給200円）は前年度と同様でしたが、出勤率の向上から、月額平均では27年度の18,257円に対し、18,672円と若干の向上がみられました。就労収入自体は大きく増えましたが、利用者増による工賃総額の増加もあり、大幅な工賃向上につなげることは困難でした。また、期中に皆勤賞（2,000円）、精勤賞（1,000円）を導入しました。

(3) 利用状況

28年度は定員20名に対して22名でスタートし、23名で終える事が出来ました。熊本地震の影響もありましたが、年間のべ利用者数では27年度と比べ500人近くの増となりました（前年度比 112.3%）。年度末の3月の平均利用者数が18.5人となっており、他の月も類似した結果でした。しかし、利用者が増えた分個々の作業面や生活面での差が目立つ様にも感じました。

(4) より多くの方にご利用いただくための取り組み

①28年度も多くの実習生を受け入れました。その中で1名の方が、新年度4月から利用開始されました。

- ②支援学校や合志市が主催する販売会に参加することで地域の方と交流し、事業所の宣伝につながりました。
- ③陶芸、木工などの手工芸品の開発、作成は十分にできませんでした。

(5) 余暇活動計画

- ①花見、サンシャインフェスタ、合同新年会などに、多くの利用者が楽しく参加できました。また、多数のご家族の方とも行事をとおして接することができました。
- ②祝日を利用して、図書館や買い物など普段できない活動を楽しむ事ができました。
- ③一日旅行は大分のサファリパークへ行き、皆で楽しむ事ができました。
- ④カラオケ、お菓子作り、芋ほりなど施設内外で楽しむ活動ができました。

(6) その他特記事項

- ①6ヶ月毎に個別支援計画書の評価、見直しを行い、常に各利用者のニーズに沿った支援を行うよう努めました。
- ②産業医、臨床心理士と連携をとり多角的な支援に努めました。また、利用者自身が臨床心理士と面談を行い、ストレスケアを行うこともありました。

### 3. サンライズ（就労移行支援）

#### （1）進路状況

28年度は、新規利用開始者10名、利用終了者15名（アセスメント利用含む）でした。熊本地震後の雇用情勢の影響か、例年に比べ就労訓練を希望する方が少なく、期中での新規利用が減少しました。一方、アセスメント利用者は多く、5名の受け入れを行いました。

利用終了された方の進路先は下表の通りです。

利用者の進路状況（10名）

終了者	就職月	進路先
Aさん（男性）	平成28年7月	有限会社 九州三星
Bさん（男性）	平成28年7月	B型事業所 白鳩園
Cさん（女性）	平成28年7月	B型事業所 白鳩園
Gさん（男性）	平成28年8月	A型 青生会
Hさん（男性）	平成28年9月	A型 イルカの会
Iさん（男性）	平成28年10月	古閑産業 合資会社
Kさん（男性）	平成28年11月	家具販売店
Lさん（男性）	平成28年11月	入院
Mさん（男性）	平成28年11月	タイヘイテクノス 株式会社
Oさん（女性）	平成28年12月	A型 風の森

一般企業以外もありますが、ご本人やご家族の希望、適性を一人ひとり見極め、十分に検討を重ね決定しました。その結果、定着状況も良好です。終了生の離職後の再利用の受け入れも行いました。

アセスメント終了者（5名）

終了者	終了月	受け入れ先
Dさん（女性）	平成28年8月	菊池支援学校（アセスメント利用）
Eさん（女性）	平成28年8月	菊池支援学校（アセスメント利用）
Fさん（女性）	平成28年8月	B型 サニーサイド（アセスメント利用）
Jさん（女性）	平成28年10月	菊池支援学校（アセスメント利用）
Nさん（男性）	平成28年12月	大津支援学校（アセスメント利用）

(2) 就職活動実績

上記以外にも採用には至りませんでした。が、受験した企業、実習や見学を受け入れてくださる企業を開拓しました。また、企業以外にも公的機関やA型事業所の実習・見学も積極的に行ないました。

・利用者の採用受験・実習・見学状況

採用受験・実習・見学事業所名	のべ 人数	採用受験・実習・見学事業所名	のべ 人数
有限会社 九州三星	2名	A型 風の森	5名
古閑産業 合資会社	1名	A型 夢のかけら舎	6名
タイハイテクノス 株式会社	1名	A型 くまもとプラス	5名
ハローワーク主催 合同面接会	4名	A型 フェルト	3名
株式会社 万彩路	1名	A型 G I C	1名
株式会社 共同	1名	B型 サニーサイド	1名
家具販売店	1名	B型 のぼら	1名
株式会社 大福物流	1名	B型 ハピネスワーク	1名
古閑産業 合資会社	毎日 3名	B型 白鳩園	1名
生活協同組合 くまもと 合志店・尾ノ上店	毎月 12名程	B型 テクニカル工房	1名
A型 イルカの会	1名	生活訓練 めいとくの里	1名
A型 あじ彩工房	1名	A型 サンシャインワークス	6名
A型 青生会	1名	B型 すてっぷはうす	6名
生活訓練 風見鶏	1名		

(3) 実習生の受け入れ

5 ページ右表を参照してください。

(4) その他（施設内・外 日常活動）

活動項目	内 容	頻 度
ハローワーク訪問	登録、現状報告の面接、求人票の検索、障害者求人票の取得	月に1～2回
就労・生活支援センター相談	登録、現状報告の面談	随 時
障害者職業センター相談	登録、職業評価、相談	随 時
相談業務	相談支援事業所とのモニタリング会議、個人面談、保護者面談、電話相談	随 時
履歴書書き	個人の手本を用意し、一枚を書きあげていく	随 時（就職試験、実習前は特に集中する）
面接練習	実際に面接を行い、服装、態度、返事の内容など個別に指導する	随 時（就職試験、実習前は特に集中する）
座 学	社会人の心構えマナー、自立のための学習、給料の使い方など	随 時
金銭管理	希望者に出納帳の記入を促し、管理を行う	随 時
自主学习	各自希望の学習を行う	毎 日
体力づくり	毎朝のラジオ体操、ウォーキング卓球	毎 日
余暇活動	フェスタ（参加、準備）、一日旅行図書館利用、調理訓練、カラオケ、買い物実習、農作業、手芸、終了式、ゲーム、DVD鑑賞など	随 時
合同活動（座学）	ライン工房との交流を図る	年数回
健康	健康診断を受診、病院同行受診	年1回、随時
同窓会	終了生との連携の強化を目的 多目的室 61名参加	2/11
スマイル劇団の参加	希望者が劇団練習に参加する	随 時

作業訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>・株式会社 万彩路</li> <li>・ホープ印刷株式会社</li> <li>・株式会社 共同</li> <li>・古閑産業 合資会社</li> <li>・株式会社 フジバンビ</li> <li>・株式会社 松美堂</li> <li>・株式会社 啓文社</li> <li>・株式会社 キョウビシ</li> <li>・熊本県学用品販売株式会社</li> <li>・小山 株式会社</li> <li>・グッドハート株式会社</li> <li>・阿蘇まほぎ農園 他</li> </ul>	様々な企業様より、サンライズとしてお仕事をいただき、訓練として役立てています。
就労先巡回	利用終了後の進路先への巡回を行い、定着を図る	随 時
終了生対応	終了生来所、電話相談	随 時

また、平成27年度より実施している大同窓会を3月に行いました。二回目となる今回も多数の参加者があり、有意義な会となりました。のべ80名以上となった終了生に対して、継続的に関わりを持ち続けることで、定着支援や職場等で直面する困難なことへの相談の場として機能することを期待しています。終了生からの開催の希望も多いことから、続けていく必要性を感じました。

## 4. 風見鶏（生活訓練）

### （1）支援内容充実のための取り組み

- ・様々な利用者の方が安心して活動できるような幅広い活動・訓練プログラムを取り入れました。利用者の方一人ひとりに合わせた支援を心がけ、社会性や生活力を高めるプログラムを提供しました。今後も様々な訓練や活動を通して一人ひとりに寄り添った支援を行うよう心がけます。
- ・将来的な就労を見据えた訓練として、コーヒーの紙袋作製などの作業プログラムを取り入れました。また、他事業所と連携した実習や作業訓練を行いました。
- ・3か月毎にモニタリングを行い、利用者の方の達成度を確認し、新たな目標を設定し、ステップアップを目指しました。
- ・月に一度の定例会議や綿密なコミュニケーションを通して、支援内容やメニューの充実化を図るとともに職員の支援力の向上に努めました。

### （2）様々な方が利用できる体制づくりへの取り組み

- ・自宅までの送迎や利用日時の自由選択など、様々な方が利用しやすい支援体制を整え、生活リズムが整っていない方のニーズに対応しました。
- ・資料（活動予定表や活動報告）を持参し、定期的に支援学校、相談支援事業所、関係機関を訪問し、利用に繋がるような働きかけを行いました。しかし利用実績は定員10名に対して登録利用者は最大で5名にとどまり、実際の利用状況は2.7名/日でした。支援学校卒業生の利用が少なく（1名）、前年度実績（3.5/日）を大きく下回りました。事業所のアピール活動が新規利用開始に上手く繋がりませんでした。今後事業所のアピール活動に継続して取り組んで参ります。

#### 【現利用者の障がい区分】

- ・知的障がいの方（支援学校卒業生）…………… 1名
- ・発達障がいの方（支援学校卒業生）…………… 1名
- ・精神、発達障がいの方（病院からの紹介）…………… 3名

### （3）訓練活動

- ・主な訓練として「マナー訓練、SST、座学（週に1回）」、「調理訓練（週に1回）」、「掃除訓練（毎日）」、「作業訓練（毎日）」、「買物訓練（週に1回）」、「外出訓練（月に2回）」、「公共施設の利用（月に2回）」等を実施し、社会性・生活力の向上を図りました。
- ・事業所で家計簿を作成し、金銭管理プログラムを取り入れました。



- ・ウォーキングは距離を「見える化」することで目標を持って継続的に取り組むようにしました。

#### (4) 余暇活動

- ・週に1度、「心を豊かにする活動」として、絵画・習字・カラオケ・ゲーム・DVD鑑賞等を行いました。
- ・毎日、体力づくりの「運動」として30分程度のウォーキングを行いました。
- ・定期的にお菓子作りや誕生会等のイベントを実施しました。
- ・上記の訓練活動と余暇活動を並行してプログラムを作り、楽しい活動と自立に繋がる訓練の両立を図りました。

#### (5) その他特記事項

- ・3か月毎に個別支援計画を作成し、本人・ご家族との面談を通してより良い支援を行うよう心がけました。
- ・訓練を通して一人ひとりに合ったその後の就労の形（A型・B型・移行型）を十分に検討し、先々を見据えた将来に繋がる支援を心がけました。その結果、2名の方が無事に利用を終了されました。

Aさん～就労移行支援事業所「サンライズ」へ

Bさん～就労継続支援A型事業所「くまもとプラス」へ

## 5. グループホーム事業

### (1) 自立への支援

#### ①一人暮らし希望の入居者の方への支援

- ・一人暮らしに必要なルールや、技術、知識など伝え、望む生活のイメージが持てるように話し合いを行いました。
- ・一人暮らしのイメージから、入居者御本人にどのような支援があれば一人暮らしが可能か話し合いました。
- ・一人暮らしに必要な調理訓練や金銭管理等を世話人と行いました。
- ・相談支援事業所やご家族と話し合いを行い、入居者の方の意向を尊重できる様に配慮しました。
- ・入居の調整や、引越しの手伝いを行いました。

#### ②現状生活の維持の入居者の方への支援

- ・入居者の方が中心になってホームのルール作りを行いました。
- ・身だしなみの声掛けや部屋の整理整頓が必要な方には、本人と一緒に整理整頓を行いました。
- ・金銭管理を本人主体で行い、お金の大切さなど伝えました。
- ・入居者の方と面談を定期的に行いました。

#### ③日常生活の支援

- ・個人ごとに個別支援計画書を作成し、各々の目標達成を目指して支援を行いました。半年ごとに本人とモニタリングを行い、目標の達成度を確認、同時に評価を行いました。(6月、12月)
- ・朝、夕食の提供を行い、必要に応じ弁当、昼食提供も行いました。
- ・緊急時および災害時避難訓練、通報訓練を月一回実施いたしました。
- ・必要に応じ、病院同行を行い、健康管理にも配慮しました。
- ・生活全般において、規則正しい生活が送れる様助言等を行い、ホームのルールを守る大切さを伝え、支援しました。

### (2) 地域住民の一員として地域交流支援

- ・近隣で開催される行事やレクリエーションへ参加しました。  
(清掃作業、夏祭りなど)

### (3) 人生の質を高めるための支援

- ・色々なイベントなど声掛けを行い、一緒に参加しました。

- ・調理訓練や園芸など、個々に興味のある分野の活動を行いました。

(4) 一市民としての権利が保障される配慮

- ・入居者のプライバシー確保に努めるとともに、行政手続きや病院受診などへの同行支援を行いました。

(5) ご家族との関係構築

- ・グループホーム便りを全入居者とご家族に配布しました。また、必要に応じてご家族と連絡を取り、生活状況を伝えました。

(6) サービス提供に関する質の向上。

- ・全国グループホーム等研修会に参加しました。
- ・グループホーム会議とは別に、月1回の世話人ミーティングを取り入れ、その中で、サービスの質的向上ができる様に、入居者の方への接し方など話し合いました。

## 6. その他（給食・送迎）

(1) 給食

適正な栄養が確保され、個人の嗜好や食欲に配慮し、なごやかで楽しい食事の提供を心がけました。

①食材や食品衛生に細心の注意を払いました。

- ・カルシウム摂取の増加（乳製品、海草類、緑黄野菜の摂取）
- ・残飯、残菜の減少
- ・個人に応じメニューの変更　たとえば乳製品が苦手な人の別メニューやご飯の量を加減するなど

②調味料のかけ過ぎに注意するなどの食事指導をして、生活習慣病の予防を指導しました。

③利用者さんの間でのトラブルを避けるため、配膳の際に席次等の配慮を心がけました。

(2) 送迎

送迎は次のコースで実施しました。

B 型…集合場所まで送迎しました。（武蔵ヶ丘コース・御代志コース）

移行型…平成28年度は全員自力通勤でした。

生活訓練…自力通所が難しい方を自宅まで送迎しました。(西合志コース・菊陽コース)

※A型は基本的に自力通勤とし、祝祭日のみバスの時刻が始業時間に間に合わないため、武蔵塚駅まで送迎しました。

## 7. 「地域の学習教室」活動報告

- (1) 期 間：平成28年4月から29年3月まで
- (2) 実施日：毎週土曜日 中学生は2時～4時、小学生は2時～3時
- (3) 生徒数・支援者：小学生7名、中学生5名、支援者13名（うち当法人職員2、理事評議員2）。一日（回）あたり平均3名で指導にあたりました。
- (4) 内 容：宿題を中心に、生徒本人が持参したドリルを利用した支援を行いました。月1回、リズム体操を実施。今年は、高校受験生が2名おられ、それぞれ第一志望校に無事合格されました。教室で最初の合格者を出すことが出来、幸いでした。
- (5) サンシャイン食堂：今年度は月一回、食事会を実施しました。7、8、10、12、1、2、3月と7回実施。時間の都合がつかずに毎回参加者が少なかったのは残念でした。
- (6) その他：「地域の学習教室」における学習支援員との意見交換会（県子ども家庭福祉課、県母子寡婦福祉連合会の主催で（H29. 2月開催）には、当教室からも支援者5名が参加しました。

### 助成金の収支報告

収 入		支 出	
県助成金（12ヶ月間）	142,600	教材費（ドリル、辞書、文具等）	29,095
		通信用切手代	8,794
		支援員交通費（1回700円）	79,100
		会場費	25,611
収入合計	142,600	支出合計	142,600

収入 142,600円 - 支出 142,600円 = 0

## 8. 福島支援ひまわりプロジェクト報告および野菜栽培報告

28年度も福島支援ひまわり栽培を行いました。4月末に種をまき、その後、草取りと水やり。花を楽しんだ後、皆で網に種をこすりつけて採取しました。8月26日に乾燥した種4.8kgを福島へ送り届けました。今年の収穫は、栽培面積も去年の1/2と少なかったのもありますが、天候不順でなかなか難しい年でした。

裏の畑で、初心者向きの野菜を作りました。きゅうり、おくら、じゃがいも、山いも、さつまいも等栽培しました。じゃがいもは6月に、さつまいもは10月半ばに利用者さんたちがほりあげました。思いの外大収穫でした。収穫した野菜は販売しました。販売先は、職員、給食用、グループホーム用、ホープ印刷、(株)共同、地域のイベント、支援学校のイベントなどです。